九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ　NO ECOLOGY.NO BUSINESS

# K－RIP情報

KYUSHU RECYCLE AND ENVIRONMENTAL INDUSTRY PLAZA

vol.3 #2012

(一財)九州産業技術センター
九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13-24
TEL 092-474-0042　FAX 092-472-6609
URL http://www.k-rip.gr.jp

〔環境エネルギーセミナー〕

〔基調講演された柏木先生〕

〔セミナー開催風景〕

《Contents》　《Page》

| | | |
|---|---|---|
| Ⅰ. | 「Ｋ－ＲＩＰ環境エネルギーセミナー」を開催 | 2～3 |
| Ⅱ. | ASEAN 調査ミッション（マレーシア） | 4～5 |
| Ⅲ. | BOP ビジネス研究会 | 6～10 |
| Ⅳ. | 環境ビジネスアライアンスマッチングセミナーin 沖縄、in 浜松 | 11 |
| Ⅴ. | 第 4 回環境イノベーションフォーラム開催 | 12～13 |
| Ⅵ. | エコプロダクツ 2012 出展に出展 | 14 |
| Ⅶ. | 環境ビジネスの創出と人脈形成の場「エコ塾」 | 15～16 |

～企業の環境エネルギービジネスへの展開のために～

# Ⅰ.「K-RIP 環境エネルギーセミナー」を開催

平成 25 年2月12日（火）、ホテルセントラーザ博多（福岡市博多区）花筐の間において、「Ｋ－ＲＩＰ環境エネルギーセミナー」を開催しました。

当日は、「環境エネルギー分野」での新たな事業展開や販路拡大に取り組む企業、関係機関等から100 名を超える参加者がありました。環境エネルギービジネスの第一線で活躍されている有識者の国内外での取り組み等に関する講演や講演者と参加者によるビジネス参入への課題・解決等について意見交換を行い、会場は終始熱気に包まれました。

【プログラム】

・主催者挨拶　　九州地域環境リサイクル産業交流プラザ　会長　　鶴田　　暁　氏

・来賓挨拶　　九州経済産業局資源エネルギー環境部長　　茂木　伸一　氏

・コーディネーター紹介・ご挨拶

（コーディネーター）Ｋ－ＲＩＰ副会長・（株）ワイビーエム　代表取締役会長　吉田　哲雄　氏

◆基調講演　『新たな環境エネルギー産業創出と今後の環境ビジネス市場の展望』

東京工業大学　特命教授　　柏木　孝夫　氏

今後の電力系統を展望したエネルギー戦略やスマート技術との融合などを背景に、関連する様々なアプリケーション市場の拡大、新たな環境エネルギービジネスなど地場企業に密接にかかわる幅広い講演をいただきました。

【講演概要】

（１）電力の安定供給は電力会社の使命である。電力システムの改革は着実に進めていくべき。

（２）電力システム専門委員会報告書のポイントは三つ。

一つ目は広域運用（広域運用機関を作る）。国が「運用機関」と、広域的に適正に運用できているか監視する「規制委員会」を２年後に作る。

二つ目は自由化。今後（2016年頃から）は家庭部門にも自由化を広げる。デマンドサイドがデジタル化してくれば自由化が進む。

三つ目は、分散型電源。コジェネレーションと燃料電池を活用する。（天然ガス利用→コジェネ・燃料電池）

◆Ｋ－ＲＩＰ環境エネルギー戦略会議の活動報告

『Ｋ－ＲＩＰの環境エネルギー分野の新展開』

北九州市立大学国際環境工学部環境生命工学科　教授　　松本　亨　氏

◆講演

・講演　1『北九州スマートコミュニティ創造事業とアジア低炭素化センターの現状の課題と今後の展開』

北九州市環境局環境未来都市担当理事　　松岡　俊和　氏

・講演　2『環境エネルギー分野への取組み』

(株)キューヘン　取締役事業開発本部長　　小山田　達也　氏

・講演　3『遮断熱塗料による畜産暑熱対策実証試験の成果』

(株)宮防　新規事業部営業部長　　荻原　英範　氏

・講演　4『無電極照明LVIを使用した工場施設における省エネ効果と必要光量の実証実験』

(株)タカフジ　事業開発部事業開発部室長　　川邊　慎　氏

◆総括　『九州の環境エネルギービジネスの展望とＫ－ＲＩＰの新たな展開＜報告＞』

Ｋ－ＲＩＰ副会長・(株)ワイビーエム　代表取締役会長　　吉田　哲雄　氏

今年度「環境エネルギー戦略会議」で取り組んできた三つの重点分野における実践事例を紹介。

①「マッチングの場の創設」。Ｋ－ＲＩＰ初の試みとして、全国の環境クラスターと連携した「アライアンスマッチング事業」を推進。企業連携、販路拡大を視野に、Ｋ－ＲＩＰコーディネーターが現地で支援活動を実施し多くの商談を実現。

②「ビジネスモデルの検討」。24年度先導的・試行的事業の活用による、照明と遮熱塗料に係る二つの実証を通じ、より広い分野での適用と市場拡大を目指し検討。

③「海外展開」。Ｋ－ＲＩＰでは、山東省ミッションをはじめ、ASEAN地域の中でも有望視されているマレーシアへの調査ミッションを開始。環境エネルギー分野でのビジネスへの取り込みについて検討。

【25年度以降の企業の取り組みの視点】

■環境エネルギーを取り巻く状況は大きな変革期にある。生産活動の現場では、経営体質を強化するためにも、さらに省エネやピークカットなどに取り組む必要があることから、環境エネルギー分野の新たな商品・システム・サービス等に対する市場のニーズは多様化し増加。

これからのビジネス創出には、複数のシステムの組み合わせ、技術の補完等により、市場ニーズに対応することが重要。その際、産学連携や異業種との連携は有効なツール。

【25年度以降のＫ－ＲＩＰの取り組み（支援）の視点】

■市場ニーズへの機敏な対応と新たな市場創出を図るため、①同業・異業種との連携強化、②九州域内にとどまらない、他地域との広域連携、③九州経済連合会、ニュービジネス協議会、福岡ベンチャーマーケット、金融機関等との連携、さらに④大企業の取り込み、⑤質の高いマッチング事業の企画・実施等が重要。海外への事業展開については、今後はASEAN地域への進出に向け、一層の市場獲得へ向けたビジネス戦略も必要。Ｋ－ＲＩＰでは、こうした視点に基づき、情報の収集・発信力アップ、マッチングやコーディネートを実践するとともに、国のFS調査・実証事業などを積極的に活用したビジネスモデルの創出に繋がるよう、フォローアップからそのフィードバックまでを実施。

［総括する吉田Ｋ－ＲＩＰ副会長］

# Ⅱ．ASEAN 調査ミッション（マレーシア）

【概要】
九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（以下、Ｋ－ＲＩＰ）は、Ｋ－ＲＩＰ会員企業の交流ニーズ、市場の有望性等から、平成 25 年度から ASEAN 地域（マレーシア）との環境産業交流をスタートさせています。
今回、Ｋ－ＲＩＰは、平成 24 年 12 月 9 日～13 日の日程で、マレーシアを訪問し、現地日系支援機関、現地政府機関及び現地企業と、環境産業交流にかかる意見交換、交流プログラムの提案を実施しましたので、報告します。

【日程】平成 24 年 12 月 9 日～13 日
【参加人数】10 名
【行程】下表のとおり。

| 日程 | 行動内容・プログラム（◆） | | 目的等 |
|---|---|---|---|
| 12/ 9/日 | 11:40-15:35<br>16:40-19:50 | 福岡国際空港　⇒ バンコク空港<br>バンコク空港　　⇒ マレーシア（KL） | |
| 12/10/月 | 11:00-12:00 | ◆マレーシア・プトラ大学（UPM）訪問 | ・大学内の九工大オフィスにて、バイオマス関連の共同研究の取組等について意見交換、実証ﾌﾟﾗﾝﾄ視察 |
| | 14:30-15:30<br>16:00-17:00<br>18:30-19:00 | ◆JICAﾏﾚｰｼｱ事務所訪問<br>◆マレーシア日本人商工会議所（JACTIM）訪問<br>◆ジェトロKLによるブリーフィング | ・JICAの環境分野の国際協力、現地ニーズ等の取材<br>・現地の企業経営者から現地進出のﾘｽｸ等の取材<br>・ジェトロKL事務所による投資概況などのﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ |
| 12/11/火 | 10:30-12:30 | ◆現地政府機関との意見交換<br>◇マレーシア投資開発庁（MIDA）<br>◇天然資源環境省環境局（DOE） | ・ﾏﾚｰｼｱの環境分野の投資ﾆｰｽﾞにかかる意見交換<br>・環境産業交流にかかる取組提案<br>・日本企業からの規制等への質疑応答 |
| | 14:30-17:00 | ◆現地政府機関との意見交換<br>◇ｴﾈﾙｷﾞｰ・ｸﾞﾘｰﾝﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・水道省（KeTTHA） | ・ﾏﾚｰｼｱの環境分野の投資ﾆｰｽﾞにかかる意見交換<br>・環境産業交流にかかる取組提案<br>・日本企業からの規制等への質疑応答 |
| 12/12/水 | 9:00-10:30<br>11:30-13:30<br>15:30-17:30 | ◆企業視察<br>◇ Indah Water Konsortium, Pantai Sewage Works<br>（下水処理を手がける公営企業）<br>◇TOSHIBA ELECTRONICS MALAYSIA SDN.BHD<br>（日系電機メーカー。自前で廃水処理を実施。）<br>◇Kualiti Alam Sdn. Bhd<br>（有害廃棄物の処理を実施） | ・企業の取組、処理技術・処理プロセス等の取材<br>・現地企業の環境技術等のﾆｰｽﾞ等の取材<br>・企業の施設等の見学、意見交換<br>・日本企業からのソリューション提案 |
| | 21:00-22:05 | KL ⇒ バンコク空港 | |
| 12/13/木 | 01:00-08:00 | バンコク空港 ⇒ 福岡空港 | |

【調査ミッションの成果】
（１）マレーシアとの交流によるビジネスチャンス、環境ニーズ等の情報収集
マレーシアは、ASEAN 地域の中でも環境への意識が高く、環境の維持、環境産業の振興等に向けた様々な取り組みに挑戦中。また、親日国ということもあり、日本からの進んだ環境技術等の導入に意欲的。マレーシアの主な環境ニーズは、次のとおりでＫ－ＲＩＰ会員企業が得意する事業分野と重複。
◇生ゴミのリサイクル、工業系廃棄物の処理技術（埋立て処分場が逼迫）
◇E-WASTE（家電・電機・電子機器類）の処理
◇下水処理場のスラッジの有効利用
◇工業排水の処理、重金属類の回収
◇メタンガスの有効利用
◇パームヤシ産業におけるバイオマス利用、廃棄物由来プラスチック等

（２）マレーシアの交流計画へ

◇マレーシアとの環境産業交流は、「マレーシア投資開発庁（以下、MIDA)」を窓口に、分野・案件に応じて、「エネルギー・グリーンテクノロジー・水道省（以下、KeTTHA)」、「天然資源環境省環境局（以下、DOE)」などと環境産業交流にかかる枠組みについて協議し、Ｋ－ＲＩＰがマレーシアの業界団体（マレーシア製造業連盟（以下、FMM）やグリーンテクノロジー・コーポレーション（以下、GTC)）と連携し、ミッションの相互派遣やビジネスマッチング等交流事業を進めていく予定。

◇また、ビジネス交流にあたっては、地元企業とパイプを持つ九州工業大学マレーシアオフィスや、JICA マレーシア等とも連携し、九州企業の市場参入を支援していく予定。

（３）参考（マレーシア経済概況）

①．マレーシアの貿易・投資概況

・人口；2,872 万人（日本の約 20%。マレー系が 60%を占める。若年層が比較的多いのが特徴。）
・宗教；イスラム教
・経済情勢；1 人あたり国民所得 9,892 ドル（2011 年)、経済成長率 5.1%（2011 年）
・産業構造；天然資源＋輸出型製造業で発展（電気・電子製品、パームオイル等)。大幅な貿易黒字。

②．日本との関係

・日系企業数；1,409 社（2011 年)。近年は非製造業の進出が目立つ。
・在留邦人数；約 1 万人
・日マ間の貿易；日本は、マレーシアの輸出先として第 3 位、輸入先として第 3 位であり、重要な貿易国。
・製造業対内直接投資；日本は第 1 位（2011 年)。全体の約 29.6%。

③．マレーシアの魅力

・政治の安定、安全・治安、インフラの充実、労働者・国民の語学力、良好な生活環境、イスラム市場へのゲートウェイ等 ASEAN 経済共同体への動き（2015 年目処）

④．マレーシア環境ビジネスのトピックス

・再生可能エネルギー買取制度の開始 (2011.12)（バイオガス、バイオマス、太陽光発電、ミニ水力等）
・環境問題；河川汚染（深刻)、ゴミの不法投棄、ヘイズ（隣国の焼き畑の灰が飛来)、土砂災害
・上水の無収水量が 38%と高いことが問題。配水管の老朽による漏水、盗水等が原因とされている。長期的な上下水道サービスの一元化に向けて、公的企業「WAMCO」による上下水道資産の買い上げを推進。
・下水は、生活排水のみ受入。工業排水は企業責任。（工業団地で中央排水処理場を整備しているところは少ない。）
・ゴミ処理は、ほとんどが埋め立て。新廃棄物処理法を 2011 年 9 月より施行し、民営化を推進。ゴミ分別の動きはあるが、対象範囲が広い、買取価格が企業任せ等、問題あり。処理場建設に対する住民の反対意見も根強い。
・第 10 次マレーシア計画（2011 年～2015 年）では、年間の GDP 成長率を 5.8%と設定。また、11 の重点経済分野（パーム油産業、環境技術関連産業等）と、1 つの重点地域（大クアラルンプール構想）を選定。

〔写真左：マレーシア投資開発庁との意見交換風景〕

〔写真右：マレーシアプトラ大学が行うバイオマス実証プラントの見学風景〕

# Ⅲ．BOPビジネス研究会

Ｋ－ＲＩＰでは国際ビジネスの海外展開に向けた新たな取り組みとしてBOPビジネス（※）研究会を設置しています。本研究会では、BOPビジネスに挑戦する企業を発掘し、その事業課題の把握、課題解決に向けた支援策の検討等を行い、九州地域におけるBOPビジネスの支援体制の構築、地域連携型の支援モデルの構築を目指します。

中長期的には、本研究会の取り組みを通じて、将来的に大幅な市場成長が見込まれるBOP市場を早期に開拓し、また、BOP層の所得向上で誕生する新市場に対し、九州地域の環境ビジネス・ネットワークを通じて、段階的に幅広く環境製品・サービスを提供し、両地域の地域間交流の促進、現地での日本ブランドの構築に取り組んでいきます。

今号では、本研究会の第3回目と第4回目の内容について報告します。

（※）BOPとは「Base of the Pyramid」の略。世界の所得別人口構成の中で、最も収入が低い所得層を指す言葉で、約40億人がこの層に該当すると言われる。BOPビジネスは、市場規模が約5兆ドルにも上ると言われるこの層をターゲットとしたビジネスのこと。直接的な利益の獲得を目的としないCSR活動の発展形とも言えるもので、企業の利益を追求しつつ、低所得者層の生活水準の向上に貢献できるWin-Winのビジネスモデルが求められる。

## 《第3回　BOPビジネス研究会》

【概要】

第３回目の研究会では、BOP に挑戦している企業の取り組みについて、事前に支援機関側から助言・提案を行っており、その助言等内容に対する企業側の検討状況について、意見交換、追加の助言・提案を行いました。

また、九州地域で BOP ビジネスを普及させるための障害を、企業セクター、公的セクター、NGO セクターなどのセクター別に分けて議論を行いました。

【日時】平成 25 年 1 月 22 日（火）13 時 00 分～14 時 50 分

【場所】福岡合同庁舎８Ｆ　共用第７会議室

【議事】

（１）支援機関側からの事前の助言等内容に対する企業側の検討状況について意見交換

・BOP ビジネスに挑戦する企業３社（エネルギー関係１社、上水供給１社、河川等汚水処理１社）からプレゼン、助言

（２）総合討論

①九州地域で BOP ビジネスを普及させる上での障害

②BOP ビジネスに取り組む際の企業サイド、支援機関サイドの留意点とは

《総合討論の要点》

①九州地域で BOP ビジネスを普及させる上での障害の要因

◇企業セクター

・企業の一般的な行動モデル「利益最大化」からの脱却が不十分
・顧客価値最大化を志向しない要因の存在（株主利益重視など）
・顧客層の情報入手が困難
・ビジネスモデルの構成要素の不足
・視察ミッションに物見遊山で参加（現場のBOP層と向き合う姿勢が必要）
・成功事例、取り組みの定石の未普及
・場（コミュニティ）の不足
・幅広いステークホルダーを巻き込むための共通善の模索困難

・自社製品等が途上国で社会的ビジネスとして可能性があることに気づくチャンスが乏しい
・国内外のNGOとのビジネスのやり方がわからない
・近い将来BOPに挑戦してみたいという予備軍がレベルアップできる場が少ない

◇NGOセクター
・企業とのビジネスのやり方になれていない
・海外NGOとのネットワークは組織対組織といより、個人対個人の場合が多い
・NGOの強みを弱みを企業に理解してもらう取り組みが必要

◇支援機関、行政機関セクター
・中小企業の価値観を変えるような、企業経営者を最前線に連れ出す仕組みが必要
・BOPビジネス支援向けの支援ツールが部分的
・具体的な助言ができない
・各機関の各支援ツールを連携させるという認識が不十分

②BOP ビジネスに取り組む際の企業サイド、支援機関サイドの留意点について

(a) まずは現地を訪問し、現場を“体験”することの重要性
・BOPビジネスを考える前に、まず、現地訪問が重要。途上国に行っていない会社がほとんどである。予算とスキームのないなかで、社長を連れて行かないといけない。
・しかし、物見遊山で参加するのではなく、現地の人々との触れ合い等、体験することが重要。

(b) ミッションに参加する企業の準備
・物見遊山で参加するのではなく、同じ目線で体験する心構えが重要。そして、ビジネスに持っていくという姿勢を持つがことが重要。

(c) 効果的な視察ミッションの実施に向けて
・NGO主催のスタディツアー（現地訪問・体験）は、そもそも個人のボランティアを対象としたものであり、現状のままでは企業のニーズには合わない。このため、企業が参加できるための工夫が必要。

(d) 企業連携に向けた課題
・海外に手を付けていないビギナーを連れて行くと、意外に企業どうしのチームが組成されるのではないか。

〔写真：研究会での企業への助言風景〕

《第4回　BOPビジネス研究会》

【概要】

第４回目の研究会は、２部構成とし、第１部は研究会、第２部は報告を兼ねたセミナーを開催しました。第1部の研究会の前半では「九州地域でBOPビジネスの魅力を効果的に広め、挑戦する企業を創出するために必要な仕組みとは」と題して、研究会メンバーで検討を行いました。

第１部の後半には、BOPに挑戦している企業（資源リサイクル業）の取り組みについて、事前に支援機関側から助言・提案を行っており、その助言等内容に対する企業側の検討状況について、意見交換、追加の助言・提案を実施しました。

第２部のセミナーでは、(株)野村総合研究所　公共経営コンサルティング部の平本督太郎氏から、「中小・中堅企業によるBOPビジネス推進に向けて」と題して、中小企業の強みを活かしたBOPビジネスの事業戦略などについて講演を行って頂きました。また、BOPビジネス研究会の活動結果について、事務局より報告を行いました。

◆第4回 BOPビジネス研究会

【日時】平成25年2月15日（金）13時30分～15時00分

【場所】福岡合同庁舎5Ｆ　共用中会議室

【議事】

（1）総合討論

・九州地域でBOPビジネスの魅力を広め、挑戦する企業を創出するために必要な仕組みとは

《総合討論の要点》

◇BOPビジネスに挑戦する企業を創出するには、まず、BOPビジネスの魅力や可能性を訴える必要があり、挑戦者をどのような機関が支援しているのかを普及させることが重要（図表1）。

◇支援機関側は、１つの支援機関で、挑戦する企業の全ての事業ステージを支援できるわけではないので、支援機関同士がどのような支援ツールを持っているのかを情報共有し、支援ツールを連携させ、可能な限りシームレスに支援できる体制を整えることが重要（図表2）。これが、疑似ワンストップ・サービス化につながる（図表3）。このためには、支援機関どうしの定期的な集まりが重要。

◇成功している企業の取り組みを分析し、ロール・モデルを生み出し、普及させることが重要。また、地域全体で支援して成功させているモデルの創出が重要。

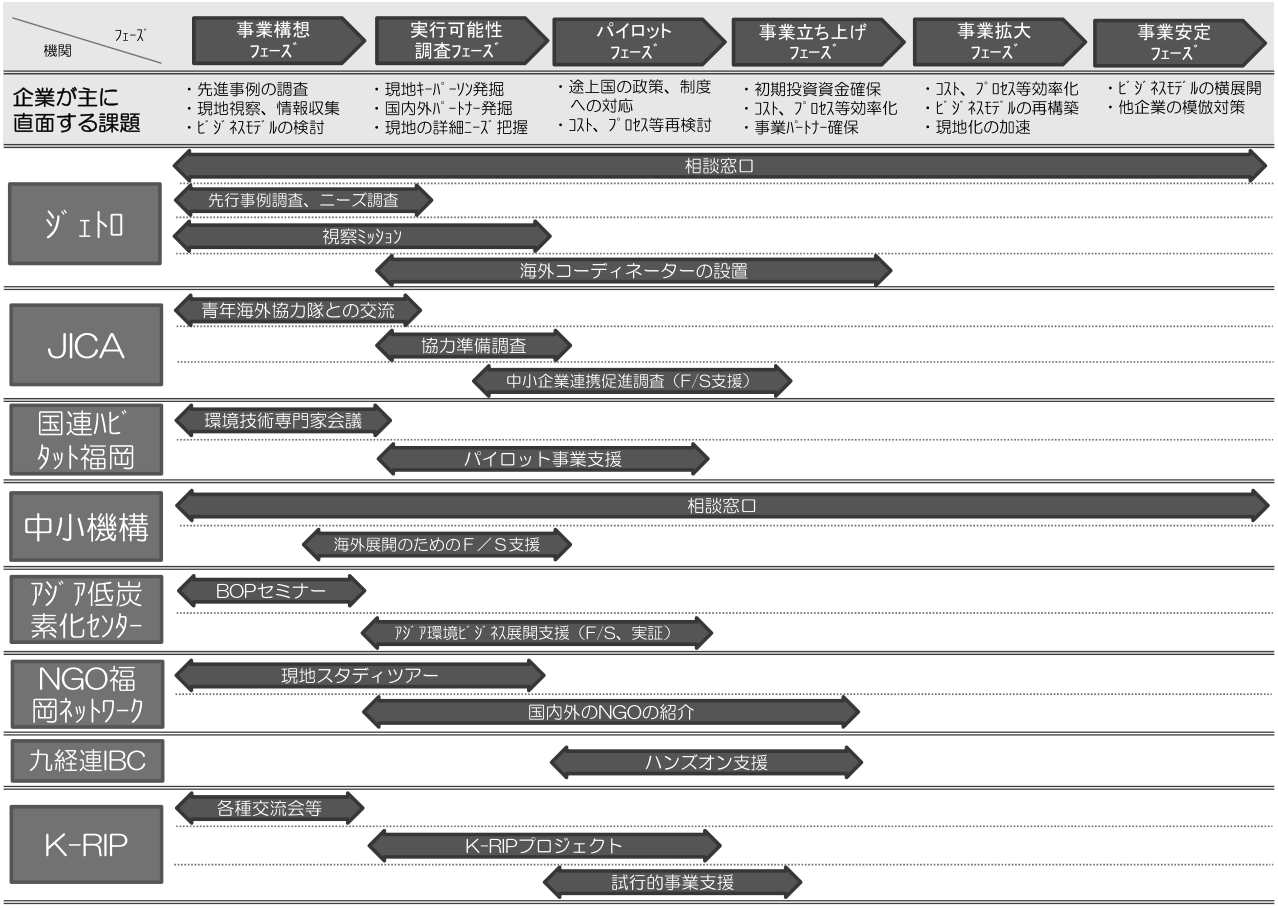
◇支援機関側は、既存支援ツールや審査体制では、BOPビジネスに挑戦する企業を支援することが難しいため、既存支援ツール等を柔軟に変えていく努力が重要。

（図表1）各支援機関が有するBOPビジネスで活用可能な支援ツール

| 機関＼機能 | 相談窓口 | 情報提供 | コミュニティ | ﾐｯｼｮﾝ派遣 | 補助金 | ﾏｯﾁﾝｸﾞ | NGOとのﾊﾟｲﾌﾟ作り |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◇ JETRO | ◎ | ◎ | | ◎ | | ○ | ○ |
| ◇ JICA | | ◎ | ○（青年海外協力隊） | ◎ | ◎（協力準備調査、F/S調査） | | ○（ボランティア制度） |
| ◇ 国連ハビタッド福岡本部 | | ○ | | | ○（F/S調査） | ○ | |
| ◇ 中小企業基盤整備機構（中小機構） | ○ | | | | ○（F/S調査） | | |
| ◇ ｱｼﾞｱ低炭素化ｾﾝﾀｰ | | ○ | | | ○（F/S調査、実証支援事業） | ○ | |
| ◇ NGO福岡ネットワーク | | ○ | | ○（ｽﾀﾃﾞｨﾂｱｰ） | | | ○ |
| ◇ 九州経済連合会国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ推進室（IBC） | | | | | | ◎ | |
| ◇ K－RIP | | | ○（環境関連の産学官ﾈｯﾄﾜｰｸ） | | ○（F/S調査、実証支援事業） | | |

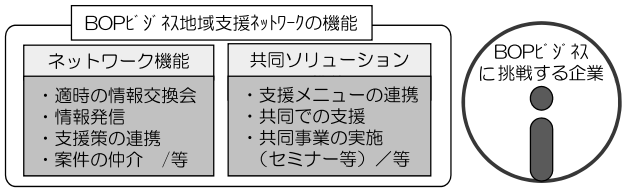
（※）◎はBOPビジネス用の支援ツール等。○はBOPビジネスでも活用可能なもの

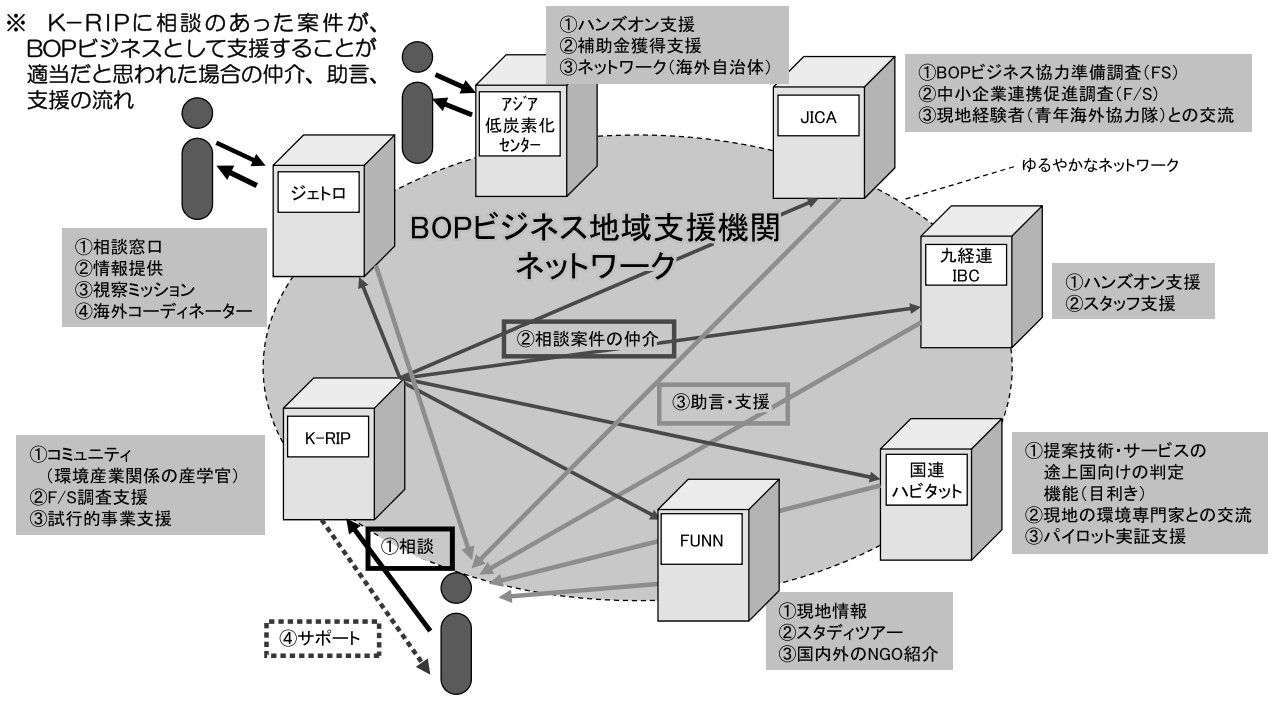
（図表 2）企業の事業フェーズと支援策




（図表 3）疑似ワンストップ・サービス化

◇ BOPビジネスを支援可能な機関でネットワークを構成し、企業からの相談について柔軟に対応できる体制を地域に構築。
◇ 支援機関どうしの連携を深め、共同でのソリューションを可能とするべく、適時、情報交換の場を持つことが重要。



◆研究会併設セミナー「BOP 環境ビジネス戦略セミナー」

【日時】平成 25 年2月15日（金）15:30～17:30

【場所】福岡合同庁舎 5F　共用中会議室

【参 加 者】40 名

【プログラム】

◇15:35-16:45　『中小・中堅企業によるBOPビジネス推進に向けて』
（株）野村総合研究所 公共経営コンサルティング部　平本　督太郎　氏

◇16:45-17:20　『平成24年度Ｋ－ＲＩＰ BOPビジネス研究会活動報告』
研究会事務局　九州テクノリサーチ　佐藤　明史　氏

〔参考（平本氏の講演要旨）〕

・BOP層が所得向上していくことにより、2030年までの25年間で35.2億人がBOP（低所得）層からMOP（中所得）層へ移行。2030年におけるMOP層（約55億人）の家計支出総額は71.6兆ドル。将来のMOP市場を想定して、いかにBOP層に入っていくかが重要な企業戦略になりつつある。

・従来の新興国・途上国ビジネスとBOPビジネスの違いはビジネスのあり方に関する“イノベーション”にある。

| 《従来の新興国・途上国ビジネス》 | | 《BOPビジネス》 |
|---|---|---|
| ◇富裕層・中間層のみアプローチ | ←→ | ◇BOP層という新たな市場にもアプローチ |
| ◇社会課題解決を目的としない | ←→ | ◇貧困等のグローバル課題の解決に寄与する |
| ◇主に既存市場への進出に注力 | ←→ | ◇新たな市場を創造することに注力 |
| ◇先進国市場での成功体験がベース | ←→ | ◇革新的な製品、ビジネスモデル |
| ◇金融機関からの資金調達や企業間連携 | ←→ | ◇寄付等の活用やNGO等との連携等新たな資源活用 |

・BOPビジネスは、従来は「貧困層の顧客化」がテーマであったが、今は、「相互価値の創造」がテーマ。BOP層との協働が重要。

・BOPビジネスの持続可能性を高めるためには、BOP層を対象とするビジネス以外での収益源を持つことが重要。

・成長している国は、生活環境が短い間に大きく変化。そうした変化の受け皿となる事業を幅広く展開していくことが継続的な成長の鍵。

・ダイナミズムを把握することで、新たな事業を次々に生み出すリズムを作り出すことが可能。

・中小・中堅企業の強みを生かすことで、大企業には難しいBOPビジネスのポテンシャルを引き出すことが可能である。例えば、中小企業特有の「迅速な意思決定」は、現地での新鮮な情報の収集、経験とネットワークの形成に寄与する。また、「実利主義」は、自社製品に固執しないことから、有望な新技術と複製可能なビジネスモデルの創造の可能性を高める。「オープン・マインド」の特性も、新たなリソースへのアクセスと活用の可能性を高めうる。

・最後には確固たる信念、信念を支える個人的な経験・思い、支えあえる仲間が最も大事な成功要因。

［写真：講演風景（平本　督太郎　氏）］

# Ⅳ. 環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー in 沖縄、in 浜松

各地域の支援機関等で構成される環境ビジネス交流フォーラムと連携し、九州地域の枠を超えてビジネスチャンスを広げるための新たな取り組みとして、今年度は国内7カ所で「環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー」を開催しています。本事業は、中堅・中小企業同士が互いのリソースを補完し合って、相互にメリットが生まれる事業（アライアンス事業）が創出されることを目的とした事業です。

沖縄と浜松で開催されたセミナーには、アライアンスパートナーを求めてＫ－ＲＩＰ会員企業が参加し、自社事業のプレゼンを行った後、現地支援機関の協力のもと多数の商談会を実施しました。

## １．沖縄開催

【日　時】　平成 25 年1月 18 日（金）13:15～17:00
【場　所】　那覇第 2 地方合同庁舎 1 号館（沖縄県那覇市）
【プレゼン企業数】　5 社（九州地区 2 社、近畿地区 1 社、
中国地区 1 社、沖縄地区 1 社）
【商談件数】24 件（九州企業の商談件数）

## ２．浜松開催

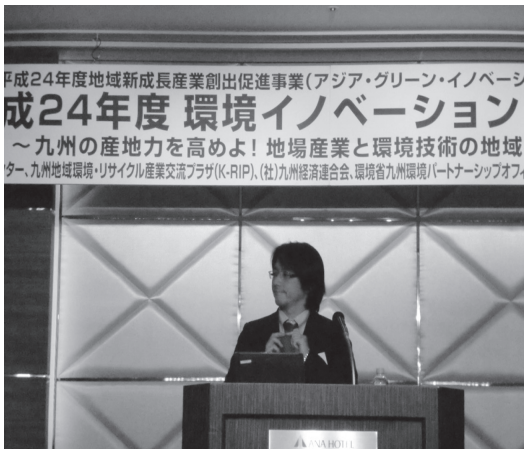
【日　時】　平成 25 年1月25 日（金）13:15～17:00
【場　所】　アクトシティー浜松
コングレスセンター41 会議室　（静岡県浜松市）
【プレゼン企業数】　10 社（九州地区 2 社、浜松地区 2 社、
近畿地区 4 社、中国地区 1 社、
沖縄地区 1 社）
【商談件数】10 件（九州企業の商談件数）

# V.　環境イノベーションフォーラム開催

## 一次産業×環境技術
## 九州の産地力を高めよ！地場産業と環境技術の地域内セッション

南九州における農商工連携による新事業創出を目的とした交流型フォーラム「環境イノベーションフォーラム」が平成25年1月29日(火)、熊本市の「熊本全日空ホテルニュースカイ」で行われました。今回も昨年に引き続きＫ－ＲＩＰと（一財）九州産業技術センター、（社）九州経済連合会、環境省九州環境パートナ―シップ（EPO九州）の主催で開催し、高輝度LEDの生物分野への応用に関する基調講演と地域課題に応じた環境技術紹介のプレゼンテーションを実施いたしました。参加者は企業、自治体、NPOなど様々な立場の方が75名出席され、盛況のうちに終了しました。

基調講演では北九州市立国際環境工学部環境生命工学科の河野智謙准教授から「一次産業・環境産業における高輝度LEDの活用に向けて」をテーマに貴重なご講演をいただきました。



【河野智謙氏による基調講演】

又、環境技術紹介では、間伐材をオフィス用品にして森林づくりに貢献、市の活性化をはかる若者の活動、バーク（樹皮）の発酵熱の利用、マイクロ水力発電装置、発酵副産物の新しいバイオリサイクルへの取り組み、水俣市の農山漁村における低炭素化の事業についての紹介発表があり、活発な質疑応答が行われました。

親睦会にも多くの方が出席され、交流を深めることができました。

【九州の企業・団体による環境技術・活動事例紹介】

| | 企業・団体名<br>発表者 | 環境技術・活動事例 |
|---|---|---|
| ① | （株）ファイル<br>代表取締役　　滝剛也氏 | 「間伐材を使用したオフィス用品」 |
| ② | あばぁこんね<br>福田浩樹氏 | 「地域の若者が、水俣の未来を拓く　～水俣の魅力と資源をプロダクツとサービスに変える取り組みについて～」 |
| ③ | （株）吉良セイショー<br>代表取締役　田中勝美氏 | 「バーク（樹皮）を用いた発酵熱エネルギーの利用（未利用バイオマスの利用）」 |

| | | |
|---|---|---|
| ④ | （株）ミゾタ<br>取締役環境技術研究所長<br>土井研一氏 | 「低水位でも発電可能な、マイクロ水力発電装置（スイロン）について」 |
| ⑤ | 味の素（株）九州事業所<br>新事業グループ<br>高橋裕典氏 | 「発酵副産物の有効利用　～当社発酵副産物を九州に展開し、九州農業元気化に貢献～」 |
| ⑥ | 水俣市産業建設部<br>総合経済対策課　係長<br>草野徹也氏 | 「みなまた農山漁村地域資源活用プロジェクト事業事例紹介」 |

【企業・団体によるプレゼンの模様】

（株）ファイル
代表取締役　滝　剛也　氏

あばぁこんね
福田　浩樹　氏

（株）吉良セイショー
代表取締役　田中　勝美　氏

（株）ミゾタ
取締役環境技術研究所長
土井　研一　氏

味の素（株）九州事業所
新事業グループ
高橋　裕典　氏

水俣市産業建設部
総合経済対策課
係長　草野　徹也　氏

# Ⅵ.「エコプロダクツ２０１２」に出展

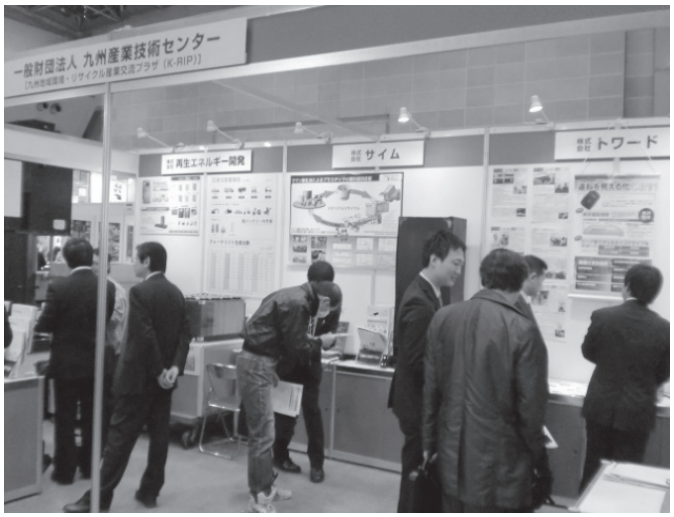
## 環境ビジネスの見本市でのマッチング支援

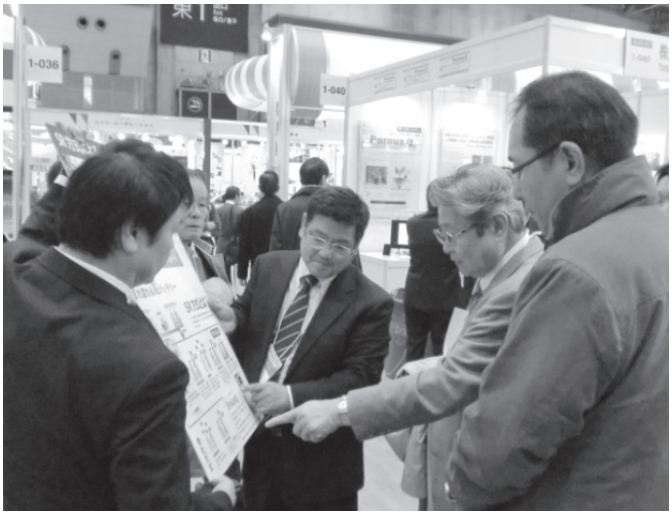
「もっとグリーンに、もっとスマートに―えらぼう未来を」をスローガンに、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ 2012」が、平成 24 年 12 月 13 日（木）から 15 日（土）の間、「東京ビッグサイト」（東京都江東区有明）にて開催されました。今回も、自動車、家電、建設・住宅、素材、環境エネルギー、事務用品等の大手メーカーを含む各企業によるブース出展のほか、「環境を軸にしたグローバル成長戦略」と称した記念シンポジウムやセミナー、商談会など充実したプログラム構成となっており、来場者は 178, 501 人で、盛況のうちに終了しました。

Ｋ－ＲＩＰでは、販路開拓支援事業採択企業 3 社　（株）トワード、（株）再生開発エネルギー開発、（株）サイム　の出展支援を行いました。

3 社の展示ブースへの来場者は延 249 人、その内ビジネスにつながると期待できるのは 41 人であり、面談（商談）件数は 8 件でした。

【見学者でにぎわうＫ－ＲＩＰブース】





# Ⅶ．環境ビジネスの創出と人脈形成の場「エコ塾」―毎月第１水曜日開催―

Ｋ－ＲＩＰでは九州経済産業局と連携して、環境分野の人的交流、企業間交流の活性化を目的とする、「エコ塾」を毎月1回開催しています。「エコ塾」は、環境関連ビジネスに取り組む企業や環境ビジネスを支援する団体等のプレゼンテーション（毎回２社講演）と、講演後の交流会（立食形式）の２部形式となっております。

今回は第66回の概要を報告します。

## 第 66 回エコ塾

【日　　時】平成25年2月6日（水）17:00～

【参加人数】講演会：74名　／　交流会：46名

### ○『微風で発電できる次世代型風力発電機「ＴＯＭＯの風」』

〔発表者〕：(株)ビルメン鹿児島　屋宜　学　氏

〔概　要〕：既存の風力発電機では可動できなかった微風であっても発電が可能となった次世代型の風力発電機「TOMOの風」についてご紹介していただきました。

今回開発した風力発電機は、①発電機に内蔵したフライホールに回転エネルギーを蓄えることにより、風が止まっても一定時間は慣性で発電が可能になり、発電量を大幅に拡大可能、②風速に対してブレード（プロペラ）を自動的に可変することにより風速1.5ｍ/sから発電が可能、③特殊な形状のブレードを採用し騒音レベルを40dbまで低減、④3㎡の面積があれば設置可能、⑤同出力程度の太陽光発電と比較すると発電効率2.7倍、などの特徴を持ち、既存の風力発電機が抱えていた問題点を改善し、国内外で運用されています（特許取得済み）。

今回のプレゼンでは、この小型風力発電機とその特許技術を紹介されました。

交流会では参加者が当社と意見交換するために、長蛇の列をつくっており、最後までその列が途絶えることはありませんでした。

### ○『ふるさとの自然エネルギーを活用できる「清流発電」』

〔発表者〕：エネフォレスト(株)　代表取締役　木原　倫文　氏

〔概　要〕：今回は当社が開発した製品「清流発電」について、その機能や特徴についてご紹介していただきました。「清流発電」とは、水の流量と流速を利用して発電する、プロペラ式のマイクロ水力発電システムです。当社の発電システムは、落差のない水路でも発電ができるため農業用水路などにも活用できます。プロペラ１つあたりの出力はおよそ 2kW の発電能力を有します。水路の幅に応じて複数のプロペラを並列または縦列に設置することが可能ですので、希望する発電能力若しくはコストを鑑みて、容易にシステムを構築できます。並んだプロペラは見た目にも美しく、景観を損なうこともありません。装置は現地組み立て方式ですので、大型の建設車両が入らない狭い場所への設置工事が可能となりました。発電した電気は自家消費のほか、系統連係による電力会社への売電をおこなうことも可能です。

講演会では多くの質問がなされ、参加者の関心の高さが伺えました。また、交流会では参加者が当社と意見交換するために、長蛇の列をつくっており、最後までその列が途絶えることはありませんでした。

〔(株)ビルメン鹿児島　屋宜 氏〕

〔エネフォレスト(株)　木原 氏〕

〔講演会の様子〕

〔交流会の様子〕

*～お知らせ ～*

この度、Ｋ－ＲＩＰが実施している環境ビジネスに特化した異業種交流会「エコ塾」について、より多くの方々に知っていただき、ビジネスに活用していただくために、「取り組み内容・活用のポイント・登壇事例」などについてまとめた、『エコ塾事例集 vol.3』を作成しました。

平成 25 年 4 月 11 日（木）開催予定の第 68 回エコ塾にて配布する予定です。

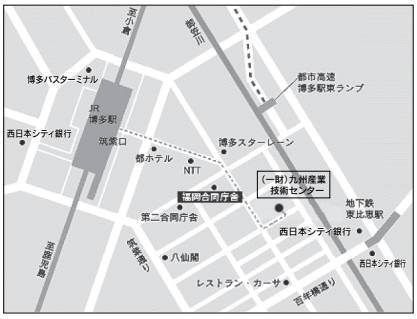
また、Ｋ－ＲＩＰのホームページでも公開いたしますので、ぜひご覧ください！

（ホームページのトップ画面の上の「出版物ダウンロード」をクリック⇒エコ塾成果事例集の「バックナンバーを見る」をクリックしてください）

【Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza】(K－RIP)

**九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）事務局**

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東２丁目13－24
(一財)九州産業技術センター内
TEL 092－474－0042
FAX 092－472－6609
URL http://www.k-rip.gr.jp/
e-mail info@k-rip.gr.jp




平成25年3月発行

PRINTED WITH SOY INK
大豆インクを使用しています